

教 育 研 究 業 績

氏名 吉田 久実
学位：修士（児童学）博士（芸術文化）

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
児童学	児童文学 児童劇 児童文化	
主要担当授業科目	保育原理 保育の計画と評価 保育実習指導 教育実習指導	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 第 73 回日本保育学会大会発表（奈良教育大学開催、但し会場開催中止） 『幼稚園実習における効果的な実習指導のあり方Ⅳ』（山路、善本、吉田）	令和 2 年 5 月 16～18 日	学生の実習日誌の形式について、様々な大学からの協力を得て、各大学の実習日誌の形式と記入項目について比較検討した。学生のより良い学びとなるような日誌の在り方についての検討をした内容をまとめ、実習指導の手順、ポイントを示した。
2 作成した教科書、教材 1. 保育実習日誌 2. 実習の手引き（共著）	令和元年年9月 令和 2 年 4 月	これまでの実習日誌の形式を見直し、学生の記録の実際の様子や実習先からの意見等をふまえて改変した。着任以来構想を練り、他の実習種（主に幼稚園実習）担当の先生方のご意見や会議での検討を踏まえて作成した。 複数の実習を行う学生が、4 年間の実習の時期のみ把握と準備、見通しを立てて実習に臨むことができるよう作成した。3 実習の実習指導にあたって、教授内容や必要書類などの共通事項と、実習別のページに分け、担当で分担または内容を共有しながら作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 特になし		
4 実務の経験を有する者についての 特記事項 認定絵本士講座講師（於：帝京大学）	令和 2 年 4 月～現在に至る	大学にて認定資格である絵本認定士の資格取得を目指す学生へ向けた前期後期合わせて 30 回の講義の内、令和 2 年度、令和 3 年度は 4 回分を担当。絵本専門士委員会が定める『認定絵本士養成講座カリキュラムに関するガイドライン』に基づいて設定されている。担当した講義のタイトルは「絵本の歴史・絵本賞について」、「ホスピタリティに学ぶ」、「絵本コンシェルジュ技術」、「絵本のある望ましい空間」。
5 その他 1. レッジョ・エミリア教育研修（於：イタリア）に参加 2. 「おもちゃキャラバン（於：ミャンマー）」におもちゃインストラクターとして参加 3. 絵本学会大会開催（於：帝京大学）	平成27年9月 20～26日 平成31年1月 22～28日 平成 31 年 6 月 1～2 日	保育原理の授業研究として、レッジョ・エミリアプロジェクトの歴史や経緯を実地にて学ぶために、イタリアの研修旅行に参加をした。プロジェクトについての講演を聴いた他、2つの保育施設の見学を行った。 保育内容総論の授業研究として、おもちゃ作りを通じた保育の身近な環境と遊びについての紹介をするプロジェクトに参加した。外国の子どもとおとな（保護者、教育関係者）に日本の玩具と遊びの紹介および遊びの実践を行いながら、文化環境の違いと遊びについて学んできた。 第 22 回絵本学会大会の開催実行委員として、所属大学での開催に関わった。「絵本と教育～メディアとしての絵本、その魅力と多様性を探る～」を大会テーマに、絵本研究に興味・関心をもってもらえるよう、多くの学生、教員、附属幼稚園の教員への参加を呼び掛けた。

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項					
事項		年月日		概要	
1 資格, 免許 保母資格 幼稚園教諭二級免許状取得 幼稚園教諭一種免許状取得 小学校教諭二種免許状取得 保育士資格取得 幼稚園教諭専修免許状取得 おもちゃインストラクター資格取得 おもちゃコンサルタント資格取得		昭和 61 年 3 月 13 日 昭和 61 年 3 月 31 日 平成 16 年 5 月 10 日 平成 16 年 5 月 10 日 平成 16 年 8 月 3 日 平成 20 年 9 月 30 日 平成 28 年 5 月 平成 29 年 5 月		保母資格 (1590 号) 幼稚園教諭二級免許状 (昭 61 幼二普第 1718 号) 幼稚園教諭一種免許状 (平 16 幼一第 0010 号) 小学校教諭二種免許状 (平 16 小二第 0021 号) 保育士資格 (神奈川県—028776) 幼稚園教諭専修免許状 (平20幼専 第0002号) NPO法人芸術と遊び創造協会認定資格 NPO 法人芸術と遊び創造協会認定資格	
2 特許等 特になし					
3 実務の経験を有する者についての 特記事項 1. 幼児の劇あそび夏季講習会講師 2. 国際児童研究所研究員 3. 神奈川県座間市幼稚園における子育て支援活動推進事業研究委員		平成 6 年 8 月～平成 18 年 7 月 平成 13 年 4 月～平成 14 年 3 月 平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月		年 1 回、7 月と 8 月の 2 日間を 12 年間、保育者を対象にした表現遊びの実践講習会分科会の講師を務めた。主に総合指導のための劇あそび講座、「絵本からの劇あそび」および「日常保育からの劇あそび」を担当した。内容は、保育者である筆者が絵本から表現遊びにつながる活動、子どもたちにとって身近なモノや、出来事などから表現遊びにつなげていった保育実践例の紹介をした。また、体験的に理解してもらえるような演習を行った。主催：(社) 日本児童演劇協会 場所：東京 (バルテノン多摩、国立オリンピック記念青少年総合センター) 大阪 (メイシアター) 国際児童研究所 (劇団風の子 附属研究所) 研究生として一年間、児童と劇的活動についての研究活動をおこなった。劇表現に関わる言葉、身体表現、音楽、和太鼓、遊びなどについて、各分野の講師のレッスンを受ける。他、現代の世界の子どもの問題についてテーマを設定し、資料収集等しながら 1 年をかけて、研究テーマに取り組む。テーマに基づき、劇作品を創作、地域の子どもたちに向けて、年に 3 回の研究発表会を行った。主催：劇団風の子 (東京) 場所：劇団稽古場 (東京下北沢) 平成 15 年度幼稚園における子育て支援活動推進事業研究委員として一年間活動をした。座間市の担当職員と市内の私立幼稚園園長が連携し、幼稚園が地域で行う子育て支援の取り組みの具体的な方策について研究、報告をした。筆者は座間市の幼稚園教諭の研究委員として、茨城県水戸市の私立幼稚園で実際に行われている子育て支援の取り組みの視察、市主催の子育てのシンポジウムに、パネリストとして幼稚園の現場からの子育て支援についての報告をした。主催：座間市役所 場所：座間市役所 (神奈川県)	
4 その他					
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項					
著書, 学術論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

<p>(著書)</p> <p>1. 『児童館の劇あそび』 カラー軍手の人形劇「コンとポンのばけくらべ」</p> <p>2. 『いつでもどこでもすぐのできる劇あそび』 「つもり」の世界であそぶ —(1)フィクションの世界をつくって 絵本『いっほんばしわたる』であそぶ (2) ゲームあそび 「はのは」 「わたしはふうせん」</p> <p>3. 絵本『さんぼのしるし』で遊ぼう！ —しるし(絵)からの想像と表現あそび—</p> <p>4. 遊びから生まれた劇を“おたのしみ会”で発表するまで</p>	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成3年3月</p> <p>平成5年9月</p> <p>平成10年7月</p> <p>平成14年7月</p>	<p>発行：(社) 全国児童館連合会</p> <p>発行：(材) 日本児童福祉協会</p> <p>機関誌「児童演劇」No. 452 発行：(社) 日本児童演劇協会</p> <p>機関誌「児童演劇」No. 500 発行：(社) 日本児童演劇協会</p>	<p>児童館という子どもたちの遊びの場において、子どもたちが主体となって行う劇あそびについての理論と実際の活動を紹介した。子どもたちが創造的で自主的な活動を行うために身近な大人はどのような援助を行ったらよいか、具体的な方法を実践例により紹介している。この中で筆者は保育者として携わる中、子どもたちにとって身近な素材であるカラー軍手を使って劇活動を行った人形劇の実践についての報告を担当し、紹介をしている。(花輪、玉川、太宰、加藤、木村、清水、長谷川、渡辺、山本、林、金平、吉田、内藤、実方、養田) p.115-123</p> <p>幼稚園や保育所での日常の小さな遊び(身振り・手あそび、ごっこ遊び、ゲーム等)を積み重ね、子どもたちの豊かな表現へとむすびつくように工夫をした実践事例を紹介した。筆者は、子どもたちの身近にある絵本やモノ、出来事、慣れ親しんでいる事柄から、対象年齢に合った素材を用いて、「〇〇になったつもり」の世界を大切にしていって試みについて紹介している。(監修 落合總三郎 養田正治 石坂、木村、林、末崎、山本、吉田、渡辺) p. 73-75, p. 83-87, p. 105-108</p> <p>絵本の絵を使って行う表現遊びの例を紹介した。 絵本『さんぼのしるし』のストーリーを用いて表現遊びへ展開し、物語を楽しみながら、身体表現のごっこあそびをする実践を紹介した。また、子どもたちで新たなしるし(絵)づくりをすることで、絵画表現に展開していく等、新たなしるし(絵)で話を作り、絵本制作にもつながる事例もあげている。一冊の本から6種類の遊びが出来る、遊びのヒントを具体的に紹介した。P. 5</p> <p>筆者が担当した年長児の、幼稚園でのおたのしみ会(生活発表会)に向けた活動を振り返り、子どもたちによる劇的活動への取り組みの姿から、子どもたちのための劇活動、発表会についての考察をした。子どもたちの物語作りから様々な表現活動へと展開していく姿を通して、子どもたちが持つ想像(創造)力について考察した。また、子どもたちが活動に関わる事で見られる、個と集団の成長についても考察している。 P. 10-11</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1. 保育における劇あそび～幼児の劇あそびにみられる“遊びどころ”の様相をめぐって～</p>	<p>単著</p>	<p>平成20年8月</p>	<p>聖徳大学大学院 修士論文</p>	<p>聖徳大学修士論文として提出をした。日常保育における、子どもが主体となって作る劇あそびの事例研究をした。劇あそびが作られていく過程での子どもたちの発言や動きの記録を辿り、振り返る中で、子どもたちによる創作の劇あそびにおける“遊びどころ”に着目した。他児と物語や表現の創作を進めるにあたり、自身が楽しむだけでなく、他児の心身の動きを見ながら、ユーモアを発揮して創作していこうとする様子を考察した。</p>

2. 「オズの魔法使い」世界における「笑い」の作り方	単著	平成 27 年 2 月	京都造形芸術大学大学院修士論文	京都造形芸術大学大学院の修士論文として提出をした。『オズの魔法使い』の作者 L.F. ボームによる、子どもたちを楽しませる、面白い物語の作られかたについて研究をした。子どもたちが可笑しな話を喜び、面白い言葉を捉えて真似をしたり、パロディにする姿を見る事がある。他の児童文学作品にも目を向け、子どもの物語世界における「笑い」についても考察をした。
3. ボームのおとぎ話にみる新しい子ども観—『オズの魔法使い』から—	単著	平成 30 年 2 月	帝京大学教育学部紀要 6 号	L.F.ボームは、幼少期に物語に親しんできた体験や自身の子どものためにつくり話をしてきたことをきっかけに、子どもに向けた物語を多く創作した。中でも代表作『オズの魔法使い』においては、子どもたちを怖がらせて教訓を伝えるおとぎ話ではなく、ひたすら楽しいおとぎ話を創ったという。本論では、ボームが考える新しいおとぎ話と、そこに見られるボームの子ども観について考察をした。
4. マザーグースから受け継ぐボームの世界	単著	平成 30 年 3 月	大阪芸術大学大学院芸術文化研究第 22 号	『オズの魔法使い』の作者 L.F.ボームは、この作品を発表する前に出版した『散文のマザーグース』において、子どもに向けて創作した作品には、自らのマザーグース体験が元になっていると述べている。本論では、マザーグースとボームの作品との比較や、共通点などを見出し、ボームが子どもに向けて作りだした世界についての考察をした。
5. ボームの“wonder tales”にみる子どものおとぎ話	単著	平成 31 年 1 月	大阪芸術大学大学院博士論文	L. F. ボーム (L. F. Baum, 1856-1919) の作品『オズの魔法使い』シリーズと『オズ』以前に創作された作品には、オーソドックスなおとぎ話の構造を良く理解し工夫した独自の物語の手法がみられた。また、作者の子どものための物語作りからは、現代社会にも通じる作者からの子どもと大人へのメッセージを読み取ることが出来た。作者の言う“wonder tales”について考察と、作者の創作にあたっての面白さの追求、試みについて探り、明らかにした。
6. 『オズのリンクティンク』における言葉のリズムとユーモア	単著	平成 31 年 2 月	大阪芸術大学大学院芸術文化研究第 23 号	『オズの魔法使い』シリーズの作者、L.F.ボームの作品における「マザーグース」の影響について探っていく中で、「マザーグース」の言葉のリズムとユーモアの影響について着目した。本論では『オズ』シリーズの作中で、最も詩編を多用している『オズのリンクティンク』を主に取り上げた。作品中の詩編にマザーグースからの影響を探るとともに、言葉のリズムに対するボームの鋭い感覚や、ユーモアについての考察をした。
7. ボームによる子どものための新しい物語—ドロシーの旅を通して—	単著	平成 31 年 2 月	帝京大学教育学部紀要第 8 号	『オズの魔法使い』を昔話やおとぎ話に見られる旅物語と比較してみると、従来のオーソドックスな旅物語を熟知した上での、作者の新しい物語作りへの試みであると読み取る事が出来る。この論文では、新しい旅物語の主人公の旅を追い、そこで出会う物事について見ていきながら、新しいおとぎ話に込められた作者の、主に子どもたちへ向けたメッセージについて考えた。

<p>(その他) 学会発表</p> <p>1. 「0歳から1歳児の笑いに見る 出会いの様相～笑いが繋ぐ世界 の広がり～」 (ポスター発表)</p>	<p>単著</p>	<p>平成21年5月</p>	<p>主催：日本保 育学会 会場：千葉大学</p>	<p>第62回日本保育学会において、ポスター発表を行った。内容は、集団保育における笑いの場面の記録から、笑いによる他者との関係づくりの様相について考察をした。0歳から1歳の子どもの記録から「笑い」の場面について、保育者、他児（友達）、自分との出会いの観点から分析を行った。社会性の発達の指標となる“笑い”の発達と、子どもたちが周囲の人や物事と関わり、自己の世界を広げて行く姿について発表をした</p>
<p>2. 「3歳児と絵本を“遊ぶ”－物語の共有と遊びの創造に関する考察－」 (ポスター発表)</p>	<p>単著</p>	<p>平成22年5月</p>	<p>主催：日本保育学会 会場：松山東雲大学・短期大学</p>	<p>第63回日本保育学会大会において、ポスター発表を行った。絵本を用いた物語遊びの場面の実践記録から、3歳児クラスの子どもたちが物語を“遊ぶ”様子と絵本の役割について考察をした。絵本作品『てぶくろ』『電車に乗って』『きょうは みんなで クマがりだ』の読み聞かせから始まった遊びの実践から、子どもたちが物語世界を共有していくプロセスに着目した。3歳児ならではの自己の物語世界の構築についても考察し、発表した。</p>
<p>3. 5歳児の劇あそび一劇活動の過程における“逸れ”に着目して－ (口頭発表)</p>	<p>単著</p>	<p>平成23年5月</p>	<p>主催：日本保育学会 会場：玉川大学</p>	<p>第64回日本保育学会大会において、口頭発表を行った。内容は、5歳児クラスの子どもの劇づくりの過程における、子どもの“逸れ”の様相について考察をした。</p>
<p>4. 絵本からはじまる劇活動についての－考察 (口頭発表)</p>	<p>単著</p>	<p>平成24年6月</p>	<p>主催：絵本学会 会場：八千代座（熊本県山鹿市）</p>	<p>第15回絵本学会大会において口頭発表を行った。内容は、大会テーマ「絵本からはじまる。絵本からつながる。」に関連して、絵本『三びきのやぎのがらがらどん』を題材にした保育実践の報告をした。</p>
<p>5. 「絵本からはじまる絵本づくり～子どもたちとのパロディ～」 (口頭発表)</p>	<p>単著</p>	<p>平成25年6月</p>	<p>主催：絵本学会 会場：静岡文化芸術大学</p>	<p>第16回絵本学会において口頭発表をおこなった。内容は、大会テーマ「え？ほん？あれも絵本これも絵本」に関連し、既成の絵本や物語をなぞりながら、オリジナルの絵本づくりへと発展した保育実践についての報告と、作品の発表をした。</p>
<p>6. 絵本『めがねさん』 (作品発表)</p>	<p>単著</p>	<p>平成26年5月</p>	<p>主催：絵本学会 会場：刈谷市文化センター</p>	<p>第17回絵本学会大会において大会テーマ「絵本とアート～絵本のつくり手たち」に関連し、創作絵本の発表をおこなった。自らつくり手になることで、絵本の制作活動についての研究を試みた。</p>
<p>7. 絵本『しーっ』 (作品発表)</p>	<p>単著</p>	<p>平成29年5月</p>	<p>主催：絵本学会 会場：フェリス女学院大学緑園キャンパス</p>	<p>第20回絵本学会大会において、創作絵本の作品発表をおこなった。保育の場面での絵本の読み聞かせをテーマにした物語を創作した。</p>
<p>8. 『幼稚園実習における効果的な実習指導のあり方Ⅳ』 (ポスター発表)</p>	<p>共著</p>	<p>令和2年5月</p>	<p>主催：日本保育学会 会場：奈良教育大学（会場開催中止）</p>	<p>学生の実習日誌の形式について、様々な大学から協力をいただき各大学の実習日誌の形式と記入項目について比較した。学生のより良い学びとなるような日誌の在り方についての検討をした内容をまとめ、実習指導の手順、ポイントを示した。 (山路、善本、吉田)</p>

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。